

2017年度 臥竜塾年間講座 年間テーマ「文字・数・科学」 第4回「文字」②

第24号 2017年8月14日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢



保育者のためのはじまりシリーズ
学習研究社 (2001/2/15)
藤森平司 著

文字講座②

本誌第9号に引き続き、臥竜塾年間講座について報告します。

7月25日(火)の臥竜塾年間講座では、「文字講座②」についての講座が行われました。

この講座のテキストの元になっている『保育者のためのはじまりシリーズ』藤森平司著の「こくごのはじまり」のはじめに本書の目的が2つ書かれています。

●保育者自身がもう一度国語を見直し、その基本的な成り立ちを理解すること。理解すると、日常園でやっていることが、そのまま言語教育に生かせることに気付きます。

●それはどんな場面か、具体的なシーンを写真でお見せること。

23のステップで、子どもの発達段階に沿ってお話します。園での日常生活のいろいろな経験を通して、基礎的な国語の力を養ってください。とあります。

全部で23ステップある内の10~14までのステップについて今回学んでいきました。ステップ1~9の内容につきましては本誌、第9号をご参照ください。

また、数講座①につきましては、本誌第13号をご参照ください。

『読む』と『書く』

平成 30 年 4 月 1 日より施行『保育所保育指針』

第 2 章 保育の内容 3.3 歳以上児の保育に関する「ねらい及び内容」
言葉 (イ) 内容 (10) 日常生活の中で、文字などで伝える

楽しさを味わう

(ウ) 内容の取扱い 5.子どもが日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。

(保育所保育指針から文字に関する内容を抜粋)

『読む』—新宿せいが子ども園での事例

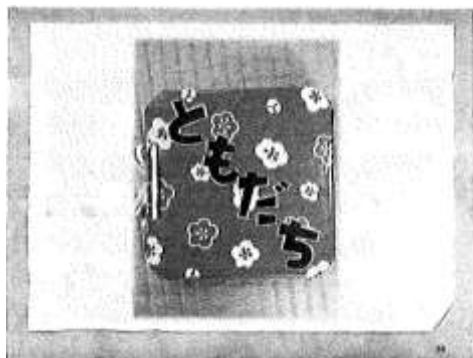
園の環境では「カードで文字を作ってみよう！」やお友達の名前が載ったカルタ。

電車が流行っている時期には山手線のポスターを張り出す。

みんなで歌う時は読める子は歌詞を読んだり、感情パネルでは自分の気持ちを表現しています。

最近流行りの将棋。将棋は字を読み、相手の心理も読み取り適切な遊びなのかもしれません。最近のものは、駒の動きが書いてあるものがあり、桂馬だったらこう進めばいいとか、裏返せばこうなるとか、矢印も標識だと思うので、子どもたちは認識しながら行っています。

土曜日に紙芝居を子どもたちが読みたいと言ったので読んでいました。紙芝居を読んでいると後ろへ行き、「何書いてあるんだろう？」と2歳の子が見ていると、1歳の子も見に来ました。紙芝居読んでいる時に、例えば「先生が読んでいるから駄目だよ、座って見るんだよ！」と言ったらこのシーンは生まれていません。子どもたちに座っていなさい、ではなく、集団に肝要で、子どもたちの興味の幅を持てる保育者のスタンスが大事だと思うことがありました。



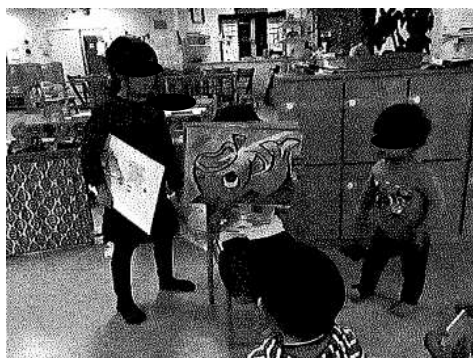
子どもたちの顔写真と名前が載った
手作りカルタ



文字と絵で表記

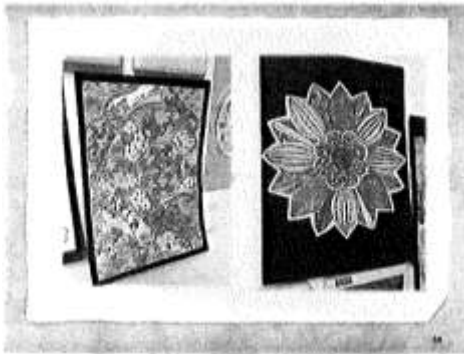


記号で表記

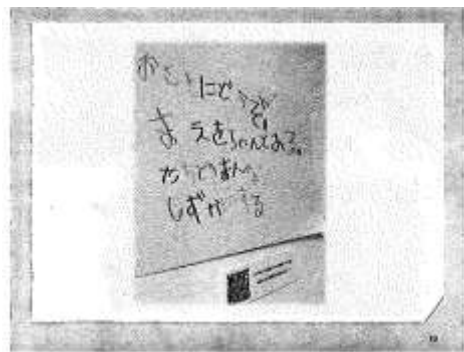




様々な書く遊びの事例



塗り絵の作品



QRコードと連動し詳しい情報を
知れるような工夫も！

書く—新宿せいが子ども園での事例

0歳児クラスでのとあること。抱っこをしてノートを書いていたら、書いているところをじっと見ていました。そこで、給食の食べ具合を書くボードに書く真似をしていたら同じくじっと見ていた。何をしているのだろうか？という感覚も文字の興味の発端になることがありました。

漢字やひらがなを書く上でのプロセスがあるかを考えると、0.1歳を見ていると、手づかみ食べやロッカーの開け閉め、子どもたちは遊んでいることも、手先、指先に関わる動きをしています。1歳児クラスでは、手先の細かさの環境を用意しています。その中で成長展の取り組みでの塗り絵の取り組みがあります。集中具合で塗る範囲も変わり、塗り込んでいます。2歳児になると自由にお絵かきをしたりしています。意識し合っ隣の子を見たり、異年齢の中で育まれている感じがあります。粘土も指先の発達に大事な要素を持っています。

紐通しや線遊び、また歌の歌詞を指でなぞったりしています。歌詞を張り出し、線をなぞってみようとか、指先の発達につながっているかなと考えています。また、文字を書き写したり、迷路や折り紙も発達にいいと園長は言います。

昨年のすいすい組の先生が「こういうこともやったよ！」と資料提供をしてくれたことがありました。初級編のワークが線の練習、中級編が点繋ぎ。上級編になると文字が入ってきます。元版はすいすい組の歴代の先生たちが手を加えて印刷したものが集まっています。これを空いた時間の午睡中に使って競うように行い、宿題でも何でもないので競いながら遊ぶ材料にワークが挙げられます。

塗り絵では、ある子が「一週間くらいかけて塗ってワクワクする！」とその子にとっての完成があるようで、ワクワクするということをしていました。



ワークショップの様子



猛獣がりに行こうよ！人数揃って着席



背中文字伝言ゲーム

ワークショップ

猛獣がりに行こうよ！

○ルール

司会者は動物の名前を言います。例えば、「にわとり」と言ったら、ひらがなで4文字なので4人で集まって座ります。

○ポイント

音節分解の理解をしているかどうか。

○歌詞

猛獣がりに行こうよ！（猛獣がりに行こうよ！）

猛獣がりに行こうよ！（猛獣がりに行こうよ！）…手拍子

猛獣なんて怖くない！（猛獣なんて怖くない！）

猛獣なんて怖くない！（猛獣なんて怖くない！）…手拍子

やりだって持ってるもん！（やりだって持ってるもん！）

…やりを天に突きさす動作

鉄砲だって持ってるもん！（鉄砲だって持ってるもん！）

…鉄砲を撃つ真似をする

あっ！（あっ！）…何かを指差す

～～ここで、司会者は動物の名前を言います～～

背中文字伝言ゲーム

○ルール

グループのメンバーが一列に並びます。司会者は最初の一人目にひらがな一文字を提示します。その一文字を背中に書き、伝言し最後の人はその文字を答えます。

○ポイント

「そ」の書き方等の書き順。

音節分解ゲーム

○ルール

司会者は50音のひらがなカードを無作為に数枚選びます。選出した文字で単語を制限時間にいくつできるか競います。

例：こ・に・ろ・へ・い 恋、塀、色、二瓶（苗字）など。



保育者のためのはじまりシリーズ表紙

文字講座②を終えて思うこと

ワークショップでは3つのゲームを行いました。純粋にゲームが楽しい！ということもありましたが、遊びながら文字に親しめるという不思議な感覚がありました。

幼心に覚えているのが、TVニュースで字幕表示された「今」という漢字を紙に書き、親に見せた記憶があります。たくさん字幕で表示されていた中で、「今」を選んだのはきっと簡単そうに見えたからなのでしょう。そして、褒めてもらったそんな記憶があります。

小学生になり漢字を習いはじめ、読めたり書ける字が増える喜びの反面で、漢字テストに苦戦した記憶もあります。自分の名前も最初はひらがなでしたが、「山」という漢字を覚え、「矢」を覚え、全て漢字で書けるようになった喜びは、今となっては遠い記憶です。

今はよく本を読みますが、学生の頃本を読まなかったのは単に部活が忙しかったからだけではなく、テストがあるから覚えなさいといけないという強迫観念みたいなものが、遠ざけていたのかもしれませんが。

新宿せいが子ども園の事例をお聞きしていると、まさに講座の元になっている本書の目的「日常園でやっていることが、そのまま言語教育に生かせることに気がきます。」ということを彷彿とさせます。

ひらがなで名前を書けるようになる！子どもたちにとって、きっと大きな喜びで、自分もそんな時があったことを忘れずにいたいと思います。

(報告者：株式会社カグヤ おくやま たくや)

●過去のバックナンバー

第21号

第44回保育環境セミナー後編

第22号

築120年古民家『聴福庵』2017③

第23号

『聴福庵』2017番外編

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。